

ことばの暴力

本校の子どもたちが、友だち同士で話しているのを聞くと、次のようなことばを平気で遣っています。



そこで、10月30日の児童朝会の時に、これらのことばをあげて、一人一人の子どもに「ことばの暴力」について考えさせてみました。

手でたたいたり足で蹴ったりすることだけが暴力ではないこと、言っている本人は気軽な気持ちで言っているが言われた方は、心が大きく傷つくことばがあることを常に考え行動するよう話しました。

さて、昨今、「ことばの暴力」を受けて、全国の子どもたちの中で、自らの尊い命を自ら絶つという悲しい出来事が続いています。感受性豊かな小学校高学年から中学生ぐらいの年頃は、友だちの心ないことばに大きく傷つきやすいものです。最初は、冗談のつもりで話していることが、だんだんエスカレートしてきます。そして、まわりにいる友だちからも「ことばの暴力」を受けると、どうしてよいか分からなくなり絶望感をもつのでしょう。

先日テレビを見ていると、かつていじめを受けたことがある高校生が、「友だちから『きしよい』とか『むかつく』などと言われている内に、自分が本当にだめな人間、生きている価値のない人間に思えてきた。」と、当時をふり返り述べていました。ことばのもつ威力の大きさと怖さを実感させられました。

言霊（ことだま）と言われるように、「たった一言」でも人の人生を変えるような思やりのことばになったり、人の心を傷つけることばになったりと、ことばは不思議なはたらきをします。ご家庭におきまして、子どもたちのことば遣いに気をつけていただき、相手の気持ちになって話のできる子に育てていただきたいと思います。

【体験を通して学ぶ】 - 学んだことを生活に生かす -

学習するにも運動するにも絶好の季節、榎並小学校の子どもたちは、日々いろいろな体験を通し、多くのことを学んでいます。

＝レッツゴ - プラン＝

7日に、「大阪らしさ」を生かした教育を推進するための支援事業として行われているレッツゴ - プランで、4年生と6年生のそれぞれが、1日乗車券を使って大阪市にある施設を見学しました。4年生は、「環境学習センター - (いきいき地球館)」と「健康科学センター」を見学し、展示



コーナーや体験コーナーで調べ学習を行い、環境と

健康について、いろいろなことを学ぶことができました。

6年生は、「難波宮跡」の発掘体験で、江戸時代の地層から瓦や陶器などの破片を発掘したり、「ピ - スおおさか」で大阪の大空襲や15年戦争などの展示物を見て戦争の恐ろしさや平和の大切さを学んだりしました。



＝避難訓練＝

9日に、不審者が、地下鉄側校門を乗り越えてB校舎1階から侵入してきたということを想定して避難訓練が行われました。本校では、毎年、不審者が校内に侵入してきた場合に、子どもたちをどのように避難させるべきかを全教職員で検討し、訓練を行っています。

当日は、子どもたちを誘導する係、不審者に対応する係、応急処置や保護者に連絡する係、警察に通報したり救急車を要請したりする係など全教職員が一丸となって、子どもたちを危険から守るための訓練を行いました。子どもたちは、「自分の命は自分で守る」ことの大切さを再認識してくれたことでしょう。

＝歯みがき指導＝

10日に、2年の3クラスにおいて、歯みがき指導が行われました。

歯科衛生士の方より第一大臼歯や歯垢について話を聞いた後、前歯1本を歯垢顕示剤で染だしをして、歯を正しくみがけているか調べました。歯垢顕示剤を使うと、しっかりみがけていないところは歯がピンク色に染まるので、子どもたちは、みがけていないところがよく分かったようです。歯科衛生士の方より正しい歯のみがき方を教えてもらい、もう一度歯みがきをした結果、どの子もみがき残しがなくきれいにみがくことができていました。

今回学んだことを生かし、歯を大切にできる子になってほしいものです。

